粕屋町文化財調査報告書第 42 集

仲原池ノ内遺跡

2017
粕屋町教育委員会

はじめに

本書は共同住宅建築に伴い、平成 28 年度に粕屋町教育委員会が実施した粕屋町仲原に所在する仲原池ノ内遺跡の発掘調査の記録です。

本遺跡は阿恵遺跡で発見された古代道路の延長線上に隣接しています。阿恵遺跡は本遺跡から約 800m 北西に所在し、飛鳥時代から奈良時代にかけての糟屋郡の役所跡であります。政庁・正倉・古代道路など、古代の役所の全体像を把握できる稀有な事例であり、古代の地方支配体制を考える上で重要な遺跡といえます。本遺跡の調査で 6 世紀代の遺構・遺物を発見したことは、阿恵遺跡成立以前の糟屋地域の状況を解明するための一助になると思われます。しかしながら、遺跡全体のうちのわずかな範囲を調査したに過ぎず、本遺跡がどのような位置付けになるかは、今後の周辺地域の調査によって次第に明らかになっていくことと思います。本書が郷土の歴史に誇りを持ち、文化財に対する理解を深める上で広く活用されるとともに、研究資料としても貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただきました関係者の方々をはじめ、近隣住民の皆様に心から謝意を表します。

平成 29 年 8 月 31 日
粕屋町教育委員会
教育長　西村　久朝

目次

1　経過・位置と環境
1 調査に至る経過
1 調査体制
1 地理的環境
1 歴史的環境

3　調査成果
3 竪穴建物
3 掘立柱建物
3 溝状遺構
6 その他の遺構
8 おわりに

9　図　版

挿図

2　第 1 図　仲原池ノ内遺跡位置図（1/25000）
2　第 2 図　仲原池ノ内遺跡周辺図（1947 年米軍撮影の航空写真）
2　第 3 図　仲原中尾遺跡全体図（1/300）
2　第 4 図　仲原峯屋敷遺跡全体図（1/300）
3　第 5 図　仲原池ノ内遺跡全体図（1/200）
4　第 6 図　竪穴建物平面図（1/40）
4　第 7 図　竪穴建物北面土層図（1/40）
5　第 8 図　竪穴建物土層図（1/40）
5　第 9 図　竪穴建物出土遺物実測図（1/3）
6　第 10 図　掘立柱建物平断面図、土層図（1/40）
7　第 11 図　溝状遺構平面図（1/100）、土層図（1/40）
7　第 12 図　溝状遺構出土遺物実測図（1/3）
8　第 13 図　包含層出土遺物実測図 19 ～ 25（1/3）、26 ～ 37（1/2）

発行	粕屋町教育委員会
調査起因	共同住宅建築
現地調査	平成 28 年 10 月 17 日 ～ 平成 28 年 12 月 1 日
整理調査	平成 29 年 4 月 3 日 ～ 平成 29 年 8 月 31 日
使用方位	国土座標第Ⅱ系（世界測地系）

遺物撮影、製図、執筆　髙橋幸作
遺構実測、遺構撮影　髙橋幸作、阿部悠理
遺物実測　福島日出海

本書に関わる遺物・記録類は、粕屋町立歴史資料館にて収蔵・管理し、公開する予定である。

経過・位置と環境

古代道路推定線が本遺跡の西約 20m 付近を通過しており、海の神を祀る志賀神社も隣接している。

調査に至る経過

仲原池ノ内遺跡の調査は、福岡県糟屋郡粕屋町仲原二丁目 2058、2243-1、2243-7 において、平成 28 年 7 月 26 日に、共同住宅建築工事に伴う埋蔵文化財事前審査願書が提出されたことに起因する。当該計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地である古代道路推定線に隣接しており、同年 9 月 2 日、15 日に試掘調査を実施したところ、現表土下約 1 m に包含層を確認し、さらにその下層から柱穴等の遺構を検出した。この結果に基づき協議を重ねたが、基礎工事による遺跡の破壊が免れないため、記録保存の発掘調査実施後に建築工事を着手することとなった。なお、調査地周囲の既設擁壁の倒壊を防ぐため、敷地境界から 1.5m 幅の空閑地を確保したうえで、残りの住宅建築部分約65㎡を発掘調査対象とした。調査は平成 28 年 10 月 17 日～平成 28 年 12 月 1 日の期間において実施した。報告書作成に係る遺物整理作業は、平成 29 年 4 月 3 日～平成 29 年 8 月 31 日で実施した。出土遺物及び図面・写真等の記録類は粕屋町立歴史資料館にて保管している。

また、地域住民の皆さまには、調査の主旨にご理解をいただくとともに、多大なご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

調査体制

平成 28 年度（発掘調査）
調査主体　粕屋町教育委員会
教育長　西村久朝
教育委員会事務局次長　大石進
社会教育課長　新宅信久
社会教育課文化財係主幹　西垣彰博
同係主事　髙橋幸作（調査担当）
同係嘱託職員　阿部悠理、福島日出海、松永メイ子
発掘調査作業員　大黒昭雄、古賀秀康、酒井満、常盤拓生、西川津由美、水上良行

平成 29 年度（報告書作成）
調査主体　粕屋町教育委員会
教育長　西村久朝
教育委員会事務局次長　大石進
社会教育課長　新宅信久
社会教育課文化財主幹　西垣彰博
同係主事　髙橋幸作（報告書担当）
同係嘱託職員　朝原泰介、福島日出海、毛利須寿代

地理的環境

福岡県糟屋郡粕屋町は、福岡市の東に隣接し、粕屋平野の中央に位置している。町域は 14.13km² と小さく平坦な地形である。

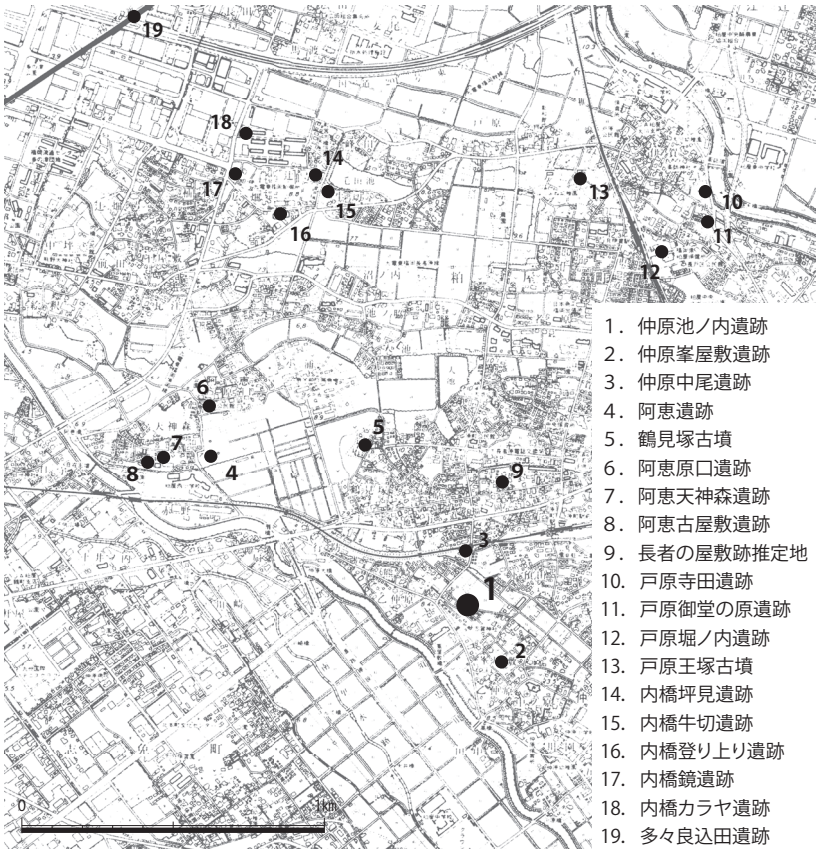
粕屋平野の西は博多湾に面し、南側は太宰府市の四王寺山から伸びる月隈丘陵によって福岡平野と区分される。東側の三郡山系、犬鳴山系を源とする 3 本の河川が平野を貫流し、北から多々良川、須恵川、宇美川の順で博多湾に注いでいるが、山地から舌上に派生する丘陵が多く伸びているため、沖積地は河川流域に限られている。また、平野の北側には立花山系があり、博多湾に面して、周りを山地に囲まれた小さな平野である。

本遺跡は粕屋平野のほぼ中央に位置し、須恵川下流域右岸の舌状丘陵北側の緩斜面上に立地する。須恵川までの距離は約 200m、標高は 10m 程度である。

歴史的環境

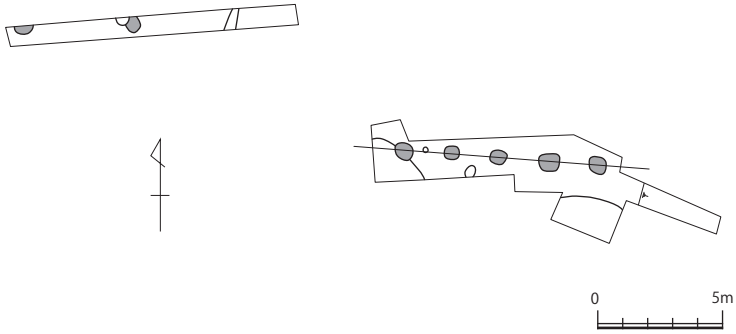
本遺跡が立地する丘陵の頂部には志賀神社が所在し、町指定樹木である樹齢約 650 年のクスノキがそびえ立つ。志賀神社は上津綿津見神、中津綿津見神、底津綿津見神の海にまつわる三神を祀っていることから、海との関係が想定でき、志賀島の志賀海神社との関係も示唆される神社である。

本遺跡周辺は過去に試掘・確認調査、発掘調査を実施した事例がなく、不明な点が多い地域であった。しかしながら、本遺跡の発見後、周辺でも新たに 2 遺跡が見つかった。北側約 200m の地点に仲原中尾遺跡、南東側約 150m の地点に仲原峯屋敷遺跡が確認でき、周辺にも遺跡が多く残っていることが明らかになりつつある。それぞれの遺跡で掘立柱建物となる柱穴が検出でき、建物の方位は仲原中尾遺跡が N － 85.5°－ W、仲原峯屋敷遺跡が N － 70.8°－ W である。両遺跡ともに遺物が出土していないため、時期は不明だが、仲原峯屋敷遺跡の掘立柱建物は後述する本遺跡の掘立柱建

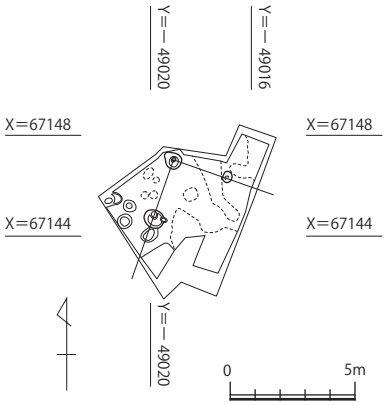


第１図　仲原池ノ内遺跡位置図（1/25000）

第２図　仲原池ノ内遺跡周辺図（1947年米軍撮影の航空写真）



第３図　仲原中尾遺跡全体図（1/300）



第４図　仲原峯屋敷遺跡全体図（1/300）

物と同様の方位である。

本遺跡の北東約 1.6km の地点に、戸原寺田遺跡が所在する。幅約 8m の大溝を検出し、最下層から紡織に関連する木製品、桙の腕木が出土した。また、鍛冶関連遺構も出土しており、6 世紀後半の手工業技術者の存在が想定される。

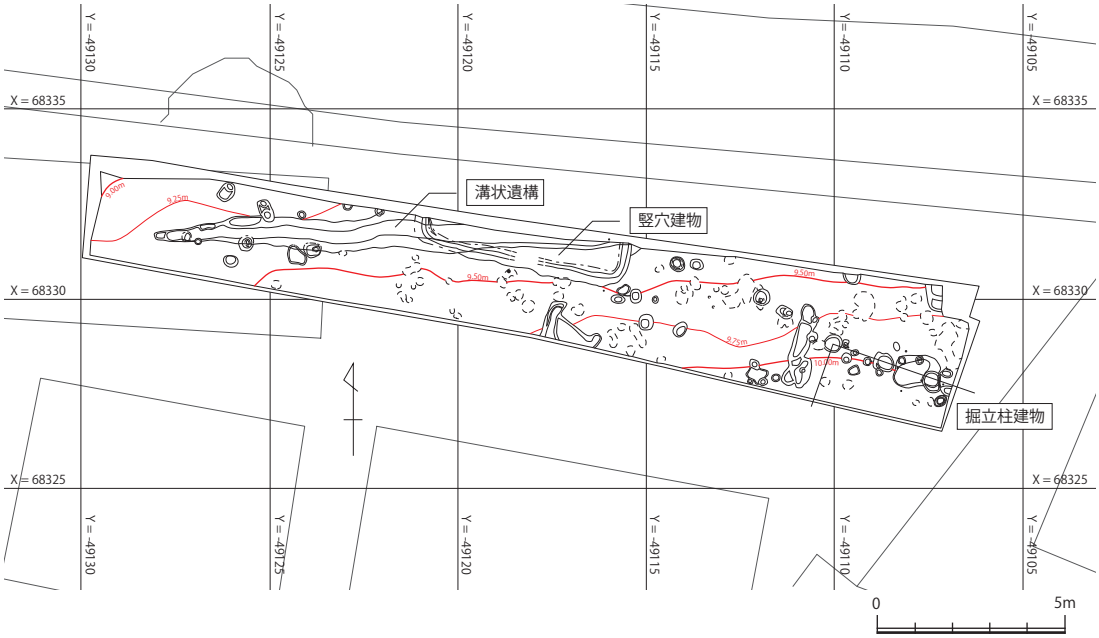
本遺跡の北西約 800m の地点に、飛鳥時代から奈良時代にかけての糟屋郡の役所跡が発見された阿恵遺跡が所在する。阿恵遺跡は政庁、正倉、古代道路関連遺構が確認でき、古代地方官衙の全容が判明する重要な遺跡である。また、7 世紀後半の評段階の遺物が出土しており、京都妙心寺の梵鐘に名前の残る「糟屋評造春米連廣國」との関係が指摘できる。なお、阿恵遺跡で発見された古代道路関連遺構を延長すると、本遺跡の西約 20m 付近を通過している。

粕屋町では古代官道が推定されており、内橋坪見遺跡が夷守駅と想定される。大宰府式鬼瓦や顎部分に赤色顔料が付着した軒平瓦、白色土などが出土していることから、格式の高い建物の存在が想定でき、夷守駅であった蓋然性が高い。

粕屋町中央部は上記のように、古代の手工業技術者集団の存在や、糟屋郡の役所跡、古代官道など、歴史的に重要な遺跡が多く所在する。しかし、不明であった南西部においても、本遺跡の発見によって遺跡の広がりを垣間見ることができた。今後の調査により、周辺遺跡との関連も検討できることになっていくと思われる。

調査成果

6 世紀代の竪穴住居、11 世紀代の溝状遺構を検出した。掘立柱建物は遺物が細片のため時期は不明である。



第 5 図　仲原池ノ内遺跡全体図（1/200）

竪穴建物（第 6 ～ 8 図）

調査区中央北側で、溝状遺構に切られる状態で検出した。建物南側の一部のみを検出し、北側は調査区外に広がっている。規模は東西幅 5.5m を測り、周りに幅約 0.3m、深さ約 0.1m の壁溝が巡る。建物の壁は残りのいいところで約 0.4m である。床面中央部に貼床を検出した。建物の埋土は 4 層に分層できる。

竪穴建物出土遺物（第 9 図）

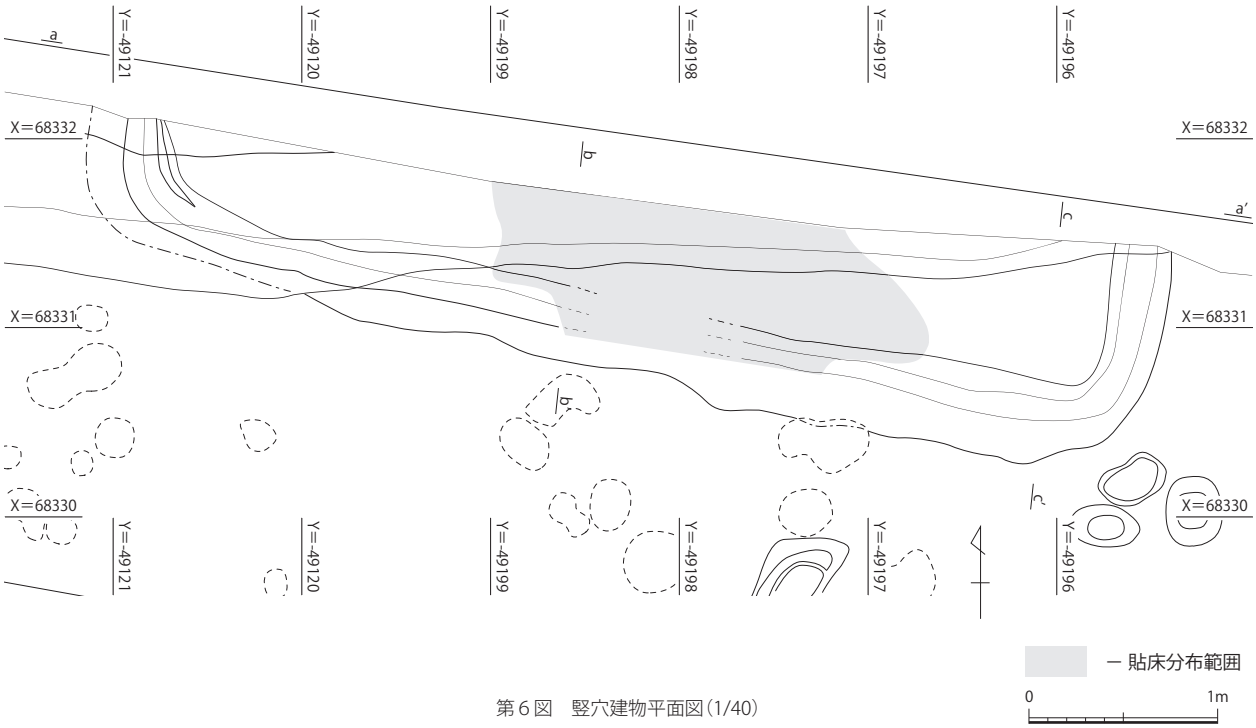
1 ～ 7 は須恵器。1 ～ 4 は坏蓋。1 ～ 3 は体部に明確な段を有する。3 は残高 3.0cm。5、6 は坏身。5 は立ち上がり部と受け部の間に溝状の凹みが残る。復元口径 10.4cm、立ち上がり高 1.6cm、器高 6.1cm。7 は壷の把手。住居の周溝から出土した。下端部は接合痕跡が残り、器壁に接合されていたと考えられる。把手上部の中央左側に直径 5mm 程の円形に作られた粘土が貼り付けられる。全長 4.3cm、厚 1.5 ～ 1.6cm のほぼ円形。8 ～ 14 は土師器。8 ～ 13 は甕の口縁部。8 は外面は縦位のハケメ、内面は横位のヘラケズリ。残高 7.0cm。9 は内外面ともにナデ、外面に一部縦位のハケメがみられる。残高 4.2cm。10 は内外面ともにナデ、内面は一部にハケメが残る。外面は口縁部を肥厚させて段状とし、さらに下方に沈線を 1 条配し、段部を強調している。残高 2.5cm。11、12 は内外面ともにナデ。11 は残高 3.4cm、12 は残高 3.2cm。13 は外面はヘラナデ、内面はナデ。残高 3.1cm。14 は埦。内外面ともにナデだが、内面はハケメ状の横位の強いナデ。残高 1.8cm。15 は砂岩製の砥石。左面と裏面に敲打痕があり、特に裏面は 2/3 ほど敲打される。正面、左右面は縦位とと斜位方向に研磨の擦過痕が残る。長 9.8cm、幅 5.1cm、厚 4.1cm。

掘立柱建物（第 10 図）

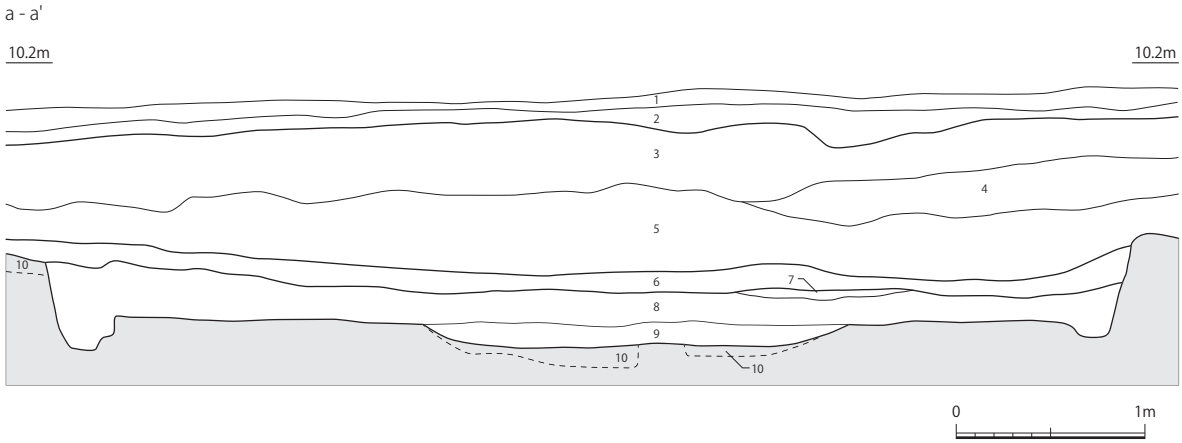
調査区東側で検出した。建物の方位は N−70.9°−W である。柱穴は円形で、規模は径約 0.5m、深さは 0.6m ～ 0.9m である。柱間は 2 間 ×1 間以上であり、南側に伸びていると考えられる。遺物は土師器が出土したが、細片で図示できるものはない。

溝状遺構（第 11 図）

調査区西側で竪穴建物を切る状態で検出した。方位は N—84.7°—E である。断面は U 字状を呈し、西から東に向かって緩やかに傾斜している。埋土はにぶい褐色粘質土の単層であり、砂層などは検出できなかった。



第６図　竪穴建物平面図（1/40）



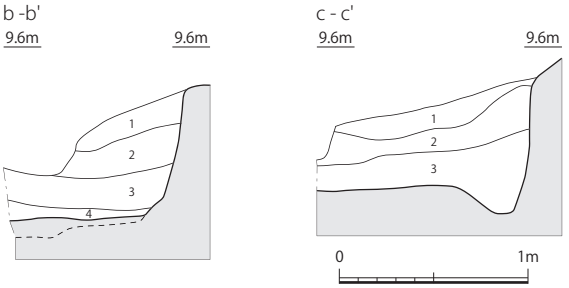
竪穴建物北面土層西側（南から）

竪穴建物北面土層中央（南から）

竪穴建物北面土層東側（南から）

１．表土
２．客土
３．包含層　にぶい赤褐色粘質土（2.5YR5/3）
４．包含層　にぶい赤褐色粘質土（2.5YR5/4）
５．包含層　にぶい赤褐色粘質土（2.5YR4/3）
６．第１号溝埋土　にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）
７．竪穴建物埋土　褐色粘質土（10YR4/6）
８．竪穴建物埋土　暗赤灰色粘質土（2.5YR3/1）に明赤褐色粘質土（2.5YR5/6）がブロック状に混じる
９．竪穴建物貼床　暗赤褐色粘質土（2.5YR5/8）に黒褐色粘質土（10YR3/2）が斑状に混じる
１０．地山

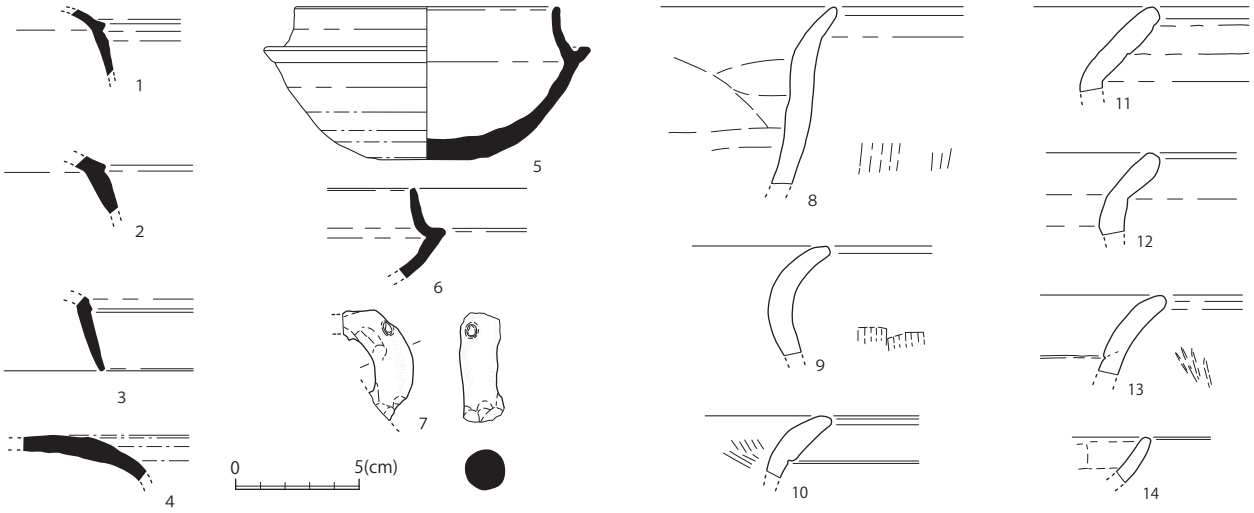
第７図　竪穴建物北面土層図（1/40）

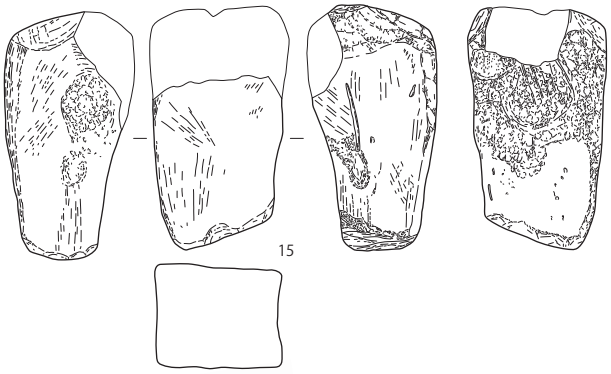


C-C' 間土層（西から）

1．明赤褐色粘質土（2.5YR3/1）に赤褐色土（2.5Y4/6）がブロック状に混じる
2．褐色粘質土（10YR4/6）
3．暗赤灰色粘質土（2.5YR3/1）に明赤褐色粘質土（2.5YR5/6）がブロック状に混じる
4．貼床　暗赤褐色粘質土（2.5YR5/8）に黒褐色粘質土（10YR3/2）が斑状に混じる

第８図　竪穴建物土層図（1/40）





5

7

15

第９図　竪穴建物出土遺物実測図（1/3）

溝状遺構出土遺物（第 12 図）

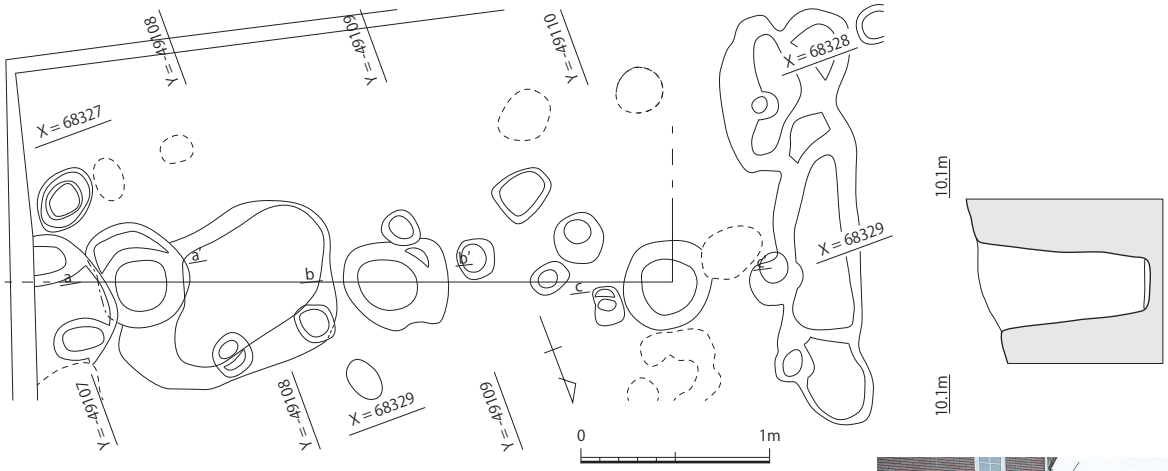
16 は白磁の碗。色調は明オリーブ灰色を呈し、釉の溜まった箇所はオリーブ灰色を呈す。復元口径 14.9cm、残高 2.5cm。17 は黒色土器 A 類。高台は若干外側に開く。底径 6.1cm、高台高 0.6cm、残高 1.5cm。18 は土師器の埦。表面は剥落しているため、調整は不明。残高 3.2cm。

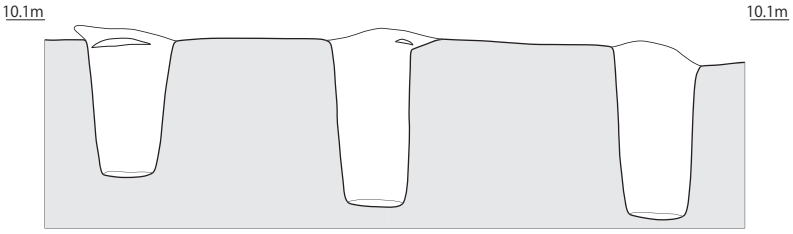
その他の遺構

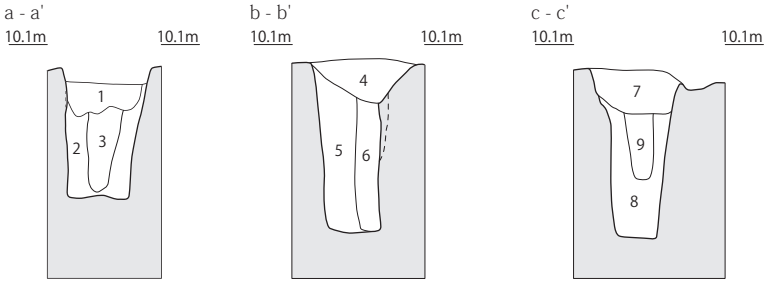
包含層を 3 層検出した。包含層は溝状遺構よりも上位に堆積している（第7図）。

包含増出土遺物（第 13 図）

19 は弥生土器の壺。底部に 0.8cm ～ 0.9cm 幅のくぼみが残り、粘土紐を円形に巻いて成形する際に巻き残したものか。底径 5.3cm、残高 2.4cm。20 ～ 22 は須恵器。20、21 は坏蓋で、とも







掘立柱建物検出状況（西から）

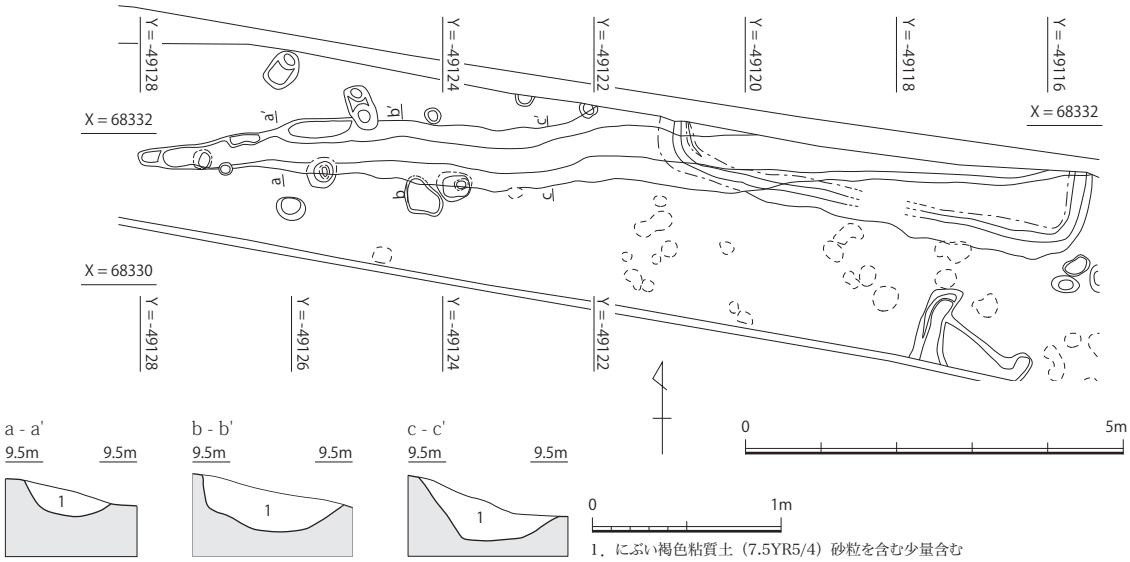
1．黒褐色粘質土（7.5YR3/1）に明褐色粘質土（7.5YR5/1）と焼土とスミが少量混じる。
2．褐灰色粘質土（5YR4/1）に明褐色粘質土（5YR5/6）が少量混じる。
3．柱痕　褐灰色粘質土（10YR4/1）に黄褐色土（10YR5/6）と焼土が少量混じる。
4．暗赤褐色粘質土（5YR3/3）にスミが少量、焼土が多く混じる
5．褐灰色粘質土（10YR5/1）と明黄褐色土（10YR6/6）の混合層
6．柱痕　褐灰色粘質土（10YR4/1）にぶい褐色土（7.5YR5/4）が混じる。
7．にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）スミが少量混じる
8．橙色粘質土（5YR6/6）と褐灰色粘質土（5YR4/1）の混合層。
9．柱痕　褐灰色粘質土（5YR4/1）

掘立柱建物 a - a' 間土層（北から）

掘立柱建物 b - b' 間土層（北から）

掘立柱建物 c - c' 間土層（北から）

第 10 図　掘立柱建物平断面図、土層図（1/40）



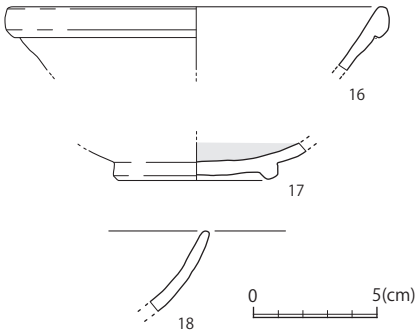
溝状遺構a - a'間土層（東から）

溝状遺構b - b'間土層（東から）

溝状遺構c - c'間土層（東から）

第11図　溝状遺構平面図（1/100）、土層図（1/40）

に体部に明確な段を有する。20は口縁部から体部にかけてまっすぐに立ち上がり、21は口縁端部に段が残る。20は残高3.6cm、21は残高4.0cm。22は片口鉢。残高3.5cm。23は手捏土器。焼成はややあまく軟質。口径4.0cm、器高2.5cm。24は土師器の甕。外面は縦位のハケメ、内面はナデ。外面に黒班が残る。残高7.0cm。25は赤焼土器。表面が剥落しているため、調整は不明。復元口径19.7cm、残高5.9cm、復元頸部径14.5cm。26～37は石器。26～36の石材は黒曜石。26～29は台形石器。26は剥片の一側縁を刃部とし、剥片端部を切断、両側縁に調整剥離を加え逆台形状に仕上げる。刃部両側縁上部のみを直線並行的に調整する。長2.5cm、幅2.2cm、厚0.8cm。27は亜角礫の角を打面とし、背面に二面以上の剥片剥離痕が残る。幅広で厚みのある剥片の末端は切断され、調整剥離を加えて側縁を整えるが、対する一側縁は自然面のままである。刃部は剥片の一側縁を利用、微細剥離が存在する。長2.0cm、幅2.2cm、厚0.8cm。28はやや厚い横広の剥片。剥片の一側縁を刃部とし、剥片打面を切断、一側縁の上部のみ調整剥離を加える



16

第12図　溝状遺構出土遺物実測図（1/3）

が、切断面は加工しない。長4.0cm、幅2.5cm、厚0.6cm。29は背面に一面の剥片剥離痕があるものの全体の2/3は自然面で、幅広くやや厚みのある剥片。剥片の一側縁を刃部とし、打面と末端を切断して長方形状に整えるが、調整剥離は見られない。長2.0cm、幅1.3cm、厚0.5cm。30は掻器。厚みのある側縁部をスクレーパーエッジに加工。周囲を粗く加工して逆台形状に仕上げる。長2.8cm、幅2.4cm、厚1.0cm。31は彫器。背面が自然面のやや厚い横広剥片。打面に水平方向で2条のファシットが入る。同剥離の起点部に相当する剥片上部に調整剥離を施し、鋭利な側縁を調整する。長2.3cm、幅2.1cm、厚0.5cm。32はナイフ型石器。両側縁がやや広がるが縦長剥片。背面は3面の剥片剥離痕が見られる。刃潰し加工は左側縁と右側縁下半に施される二側縁加工で、刃部は右側縁上半となる。残存長1.7cm(刃部先端が欠損)、幅1.0cm、厚0.2cm。33は切断剝片。背面に一面の剥片剥離痕があり、左側面部には自然面が残る。両側縁は平行で全体にやや幅広な縦長剥片で、打面と末端を切断する。長2.5cm、幅1.3cm、厚0.5cm。34はつまみ状石器。やや厚みがある剥片で、背面と腹面の剥離方向が90°異なる。刃部は剥片末端で両側縁に粗い加工を加え内湾気味

第 13 図　包含層出土遺物実測図 19 ～ 25(1/3)、26 ～ 37(1/2)

に整えた後に細かい調整加工を施す。長 2.4cm、幅 1.6cm、厚 0.5cm。35 は縦長剥片。自然打面で背面には腹面と同方向の剥片剥離痕が 4 面あり、左側縁に微細剥離が認められる。長 3.2cm、幅 1.8cm、厚 0.5cm。36 は石核。やや厚みがある剥片で、背面と腹面の剥離方向が 90° 異なる。長 3.6cm、幅 2.5cm、厚 1.3cm。37 は石材不明の打製石斧。内部灰黒色、風化面は黄褐色で、内部灰黒色部が細かな角礫状となって表面に現れている。残存長 6.4cm、残存幅 2.7cm、残存厚 1.0cm。

包含層からは上記以外にも鉄滓が出土しており、写真を掲載している。

おわりに

本遺跡は調査範囲が約 65㎡と狭小ながらも、6 世紀代の竪穴建物、時期不明の掘立柱建物、11 世紀代の溝状遺構を検出した。本遺跡は北に向かって傾斜する丘陵の緩斜面に立地しており、南側の頂部にかけて集落の広がりがあったと考えられる。また、包含層から黒曜石製の石器が多く出土しており、近隣に縄文時代の遺跡が所在する可能性が想定される。

本遺跡の南東約 150m の地点に所在する仲原峯屋敷遺跡で、同様の方位をとる掘立柱建物が検出されている。集落としての関連は不明だが、丘陵状には他にも遺跡が所在したことが窺われる。

本遺跡周辺は過去に調査事例がなく、不明な点が多い地域であったが、周辺にも遺跡が広がっている可能性があり、今後の調査により、遺跡の全容が明確になってくるものと思われる。

19

22

包含層出土鉄滓

図　版

竪穴建物完掘状況（南西から）

調査地東側全景（東から）

調査地西側全景（東から）

竪穴建物貼床除去前（南西から）

竪穴建物 b - b' 間土層（東から）

竪穴建物貼床 b - b' 間土層（南西から）

溝状遺構完掘状況（西から）

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

包含層出土石器

報告書抄録

ふりがな	なかばるいけのうちいせき
書名	仲原池ノ内遺跡
シリーズ名	粕屋町文化財調査報告書
シリーズ番号	第 42 集
編著者名	髙橋幸作
編集機関	粕屋町教育委員会
所在地	〒 811-2314　福岡県糟屋郡粕屋町若宮一丁目 1 番 1 号
発行年月日	2017 年 8 月 31 日

所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仲原池ノ内遺跡	福岡県糟屋郡粕屋町仲原二丁目 2058、2243-1、2243-7	403491	280235	33° 36′ 34″	130° 28′ 04″	2016.10.17 ～ 2016.12.01	約 65㎡	共同住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仲原池ノ内遺跡	集落	縄文時代～古墳時代、平安時代	竪穴建物、掘立柱建物、溝状遺構	石器、弥生土器、土師器、須恵器、白磁	

要約

須恵川下流域右岸に形成された舌状丘陵先端の北側緩斜面に立地し、6 世紀代の竪穴建物 1 棟、11 世紀代の溝状遺構 1 条を検出した。掘立柱建物も 1 棟確認したが、出土遺物が細片のため、時期は不明である。集落の主要な範囲は調査区外の丘陵頂部付近にあたると思われる。

仲原池ノ内遺跡　粕屋町文化財調査報告書第 42 集

平成 29 年 8 月 31 日　発行

発行　粕屋町教育委員会
〒 811-2314　福岡県糟屋郡粕屋町若宮一丁目 1 番 1 号（粕屋町立歴史資料館）
TEL：092-939-2984　FAX：092-938-0733

印刷・製本　株式会社 三光
〒 812-0015　福岡県福岡市博多区山王一丁目 14-4
TEL：092-475-6271　FAX：092-475-6274